一校区に一保育所を

社会的責任で子どもの教育

私たちの手で理想的な保育所を作ろう

労働者の町といわれる大牟田で働く婦人は、年々増加の途をたどっています。

最近では、夫の賃金で生活できないため、パートタイム、内職と家庭の主婦も生活ゆえに働かざるを得なくなっています。

それなのに大牟田市では、公立保育所（諏訪、鳥塚）は二カ所しかなく、一万人近くの子どもが保育所に通えず困っています。

私たちの目的はあくまで、大牟田市に公立保育所を増設、完備させ、市民のための市政改善、「福祉行政の強化」を行なう。

一、集団保育の中で子どもを育てたい。

一、婦人の職場を守るために、社会的責任で保育することが望ましい。

一、現在の保育所の内容が改善されて、理想的な環境の中で育てて欲しい。

など。そこで昨年八月実行委員を設置

【第一回目の取り組み方】

昨年十二月に入って、組織内の署名カンパを行ない、大牟田市議会、県議会に請願し、五千六百人の署名を集めた。

【第二回目の取り組み方】

こんど運動をさらに盛り上げるために、街頭署名を行なった。一月二十一、二十二日二日間、栄町バス停、築町、松屋前の三カ所で市教組、母親と女教師の会および三池主婦会など革新系十団体が実現に起ち上がった。

みんなの力が必要です。

みんなの統一した力が必要です。

さあ、町内からも、職場からもみんなの力を合わせて、市に要求しましょう。

公立保育所をつくろうと市民によびかけて、街頭署名とカンパ活動で大きな成果をあげた。

主婦のねがい

宮浦・東谷分会　野林スエノ

暮れだ正月だと、みんながうかれるときにも、家計をあずかる主婦にはうかれる気にはとうていなれません。私もその一人です。ほとんどの主婦の方が家庭を犠牲にして、内職にはげみ、頭を痛めているのが実態なんです。金もなければ、暇とてあろうはずがありません。

新学期を目前にひかえて、新入学、中学、高校と進入学されるお子さんをお持ちのお母さん方は、家計簿を記入するペンにも力がこもり、この赤字、赤字の家計はいつになったら黒字になるのか予想もつきません。

公共料金は上がるし、諸物価は次から次とはね上がるし、ますます私たちの暮らしは苦しくなるばかりです。

政府はただ数字だけのごまかしで、何の策もしようとはしていません。党利党略、我田引水、資本家肥やしの先棒かつぎやなのです

所得倍増だなんて、あたかも所得が倍にもなるような国民をあざむき、その実、資本家肥しばかりだったではありませんか。新産都市計画とか、いろいろな手に飛びつき夢中で資本家は投資投資でふくれあがり、過度競争の果てが操短のよぎなしに至るまで頻かむり気づいたときには不況ムードのアピールです。資本家はその行き詰りをわれわれ労働者におしつけてきています。企業の合併に各会社が首切りをおしつけてきました。

大牟田でも三井資本家は、自分らの無策失敗を合理化の名目のもとにメンツを保とうとしています。現に皆さんもご存じのように三井化学でも東圧でも合化でも合理化はすすめられています。こうした暴挙は私たちが味わった苦い体験を通じて思うとき、大地評下にある労働者として、また主婦として見のがすことはできないと思います。

今年は私も曲りなりにも分会の役を受け運動を共にして参りましたが、力強い団結と働く者の血のつながりの尊さをしみじみと感じ取り、とてもうれしく勇気づけられました。皆さん、私たちが執行部を信じ闘いつづけてきた道こそ最大の味方だと存じます。闘いなくして決して私たちの暮らしはよくはならないはずです。

春闘もこの意味で、団結と横のつながりを執行部の方と共に、私たち主婦は十分なバックアップして勝ちとらなければならないと思います。総選挙から地方選へと闘われる今年は、多くの議席を勝ちとり、国民のための国民の政治をしない限り、みんなの幸せ家計簿の黒字は実現しません。それには団結の力以外にありません。私は、家庭での一主婦として、落着きを望む者であります。

宮浦職場対抗マラソン

五連勝の電気分会

宮浦支部では、恒例となったマラソン大会を、一月十五日行なった。

宮浦では、今年で五回目のマラソン大会を行ない、毎年どの職場が優勝するかが、職場の話題となっている。

十五日には、宮浦支部前を十時十分に出発した九チームの選手は本部前・宮坂町・桜町・笹原・勝立・上官を経て宮浦へというコースを、この日ばかりは目ごろの仲間にも負けてはならないと力走した。

優勝は五連勝をかざった電気分会が五十三分五十八秒でみごと優勝。二位は保線測量。三位は乙方となった。

乳幼児のカゼと日ごろの注意

一、二月はカゼをひきやすい月で、流感などの一番多い季節です。赤ちゃんや幼児にとって怖いのは肺炎の併発で、急性肺炎のために数日のうちに死亡したということも以前はよくありました。生まれたての赤ちゃんには、今でも致命的な場合があります。

カゼにかからないためには、冬でも暖房のきいた室内にだけとじこめておかないで、赤ちゃんでも日光浴や外気浴をさせることです。幼児なら人ごみはさけますができるだけ戸外につれ出し、のびのびと自由に遊ばせ、とくに栄養に気をくばり、偏食をさせない。外から帰ったらうがいをさせるなど、毎日のたんれんや心くばりが大切です。

流感の予防注射は病源菌の型が合っていれば効果がありますが効果ができるまでに三～四週間はかかるので、流感の気配があればもちろん、むだのようでも早くかからしておけばある程度安心です。

三池まなぶ会

ことしも全国の若い仲間が二月四日から六日まで三百二十名やってきます各地域で受入れに万全を期しましょう。

セロテープの取り方

紙にはったセロテープをはがしたいとき、そのままとろうとしますと、紙がテープについて破けたりするものです。きれいにとる場合は、少しあたたまったていどのアイロンコテをセロテープの上にあてると、紙がついたりしないで、きれいにはがすことができます。

時計を水の中に落したら

時計などをうっかり水の中に落した場合は、ベンジンの液の中に時計をふるようにしてつけて、あと十分蒸発させてから時計屋さんへ持っていくと、サビを防ぐことができます。ベンジンは、時計の中にはいっている水分を、おし出す力を持っているからです。アルコールでも、けっこうです。

お父さんの協力で

今度はじめて主婦会の分会長をやってみて、判らないことばかりで、本当に何から何までお父さんの協力がないとやっていけないようです。

お父さんは職場の組長と地域の役員をやっているから、私の苦労や悩みも判ってくれて協力してくれるのだと思います。

判らないことは何でも相談し、アドバイスしてもらいます。一つ一つ何でも勉強していきたいと思います。

分会ニュースを出して

分会で毎月「花の輪ニュース」の

協力しあって運動を ⑯

みんなの中でのしあわせ

四山・福祉五分会

左藤美佐子さん（33才）

というのを出しています。いまはほとんどの人が内職に行っていて顔を合わせる機会も少なくなりました。こんなときこそ、なお一層心のふれ合いがほしいと思います。ガリ切りもお父さんが引き受けています。私が会議に出ることが多いのですが、帰ると何もしないでいいように食事の準備からすんでいます。

安心して話し合える仲間

最近つくづく、三池労組にいてよかったなと思うようになりました。私たちは貧乏することを恥だとは思っていないので、主婦会の人とも、お父さんのノロケから悪口まで、家のカマの中のことから何の気がねもなく話すことができます。

第二組合では、家の中のアラや金銭のことまでは話せないのではないかと思います。私は家ではお父さんに、外では主婦会の人や三池労組員の人と安心して話し合える仲間をもって幸せです。

すべてこのニュースには、いろんな連絡の他にも、家庭の中の小さなニュース、例えば犬の子どもが生れたようなことでものがさず、のせたいと思います。

このニュースを出すにも、主人の大きな支えと協力で出せるのです。

たたかいの火

高椋　竜生

おれたちは
なかまを裏切らなかった

おれたちは
差別とたたかった

踏まれても蹴られても立ち上がる土根性は
弾圧の中で丈夫に育っていった

どのようにつよい
風にも雨にもビクともしない
おれたちの
胸の燃ゆる闘いの火は

ひとり
ひとりのオルグにうけつがれ
そこでいきづき始める

おれたちの　闘いは
大きなうねりとなっておしひろがり

みいけの
土根性は
そこに　どっかと根を下ろし
ぐん　ぐん　根を張り始める

くらしのなかに　闘いがある
職場のなかに　闘いがある

生きるための
闘いがある
生きるための
闘いがつづく。